

殺菌剤

協友

ベフラン[®]液剤25

イミノクタジン酢酸塩…………… 25.0%

種類名/イミノクタジン酢酸塩液剤

農林水産省登録/第21653号

毒性/劇物

有効年限/5年

包装/500ml×20

特 長

- ベフランは幅広い抗菌スペクトラムを有します。
- 侵入菌糸の伸長阻止効果、病斑形成阻止効果、胞子形成阻止効果が優れています。

適用病害と使用法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
りんご	モニリア病 黒星病 うどんこ病	1000倍	200～700 ℓ/10a	展葉期	本剤 6回 〔但し、開花期以降〕 散布は3回 イミノクタジン剤 8回 〔液剤及び水和剤は合 計6回(開花期以降は 3回)、塗布剤は2回〕	散布
	腐らん病	500～ 1000倍		休眠期		
	すす点病 すす斑病 斑点落葉病 褐斑病 輪紋病	1500～ 2000倍		収穫前日 まで		
	黒星病	1500倍				
	紫紋羽病	250倍		—		
ぶどう	晚腐病	250～ 500倍	200～700 ℓ/10a	休眠期	本剤 1回 イミノクタジン剤 3回 〔休眠期は1回、 生育期は2回〕	散布
	褐斑病 つる割病	250倍				
	黒とう病	1000倍		収穫60日前 まで	本剤 2回 イミノクタジン剤 3回 〔休眠期は1回、 生育期は2回〕	
	枝膨病					
なし	黒星病	250倍	200～700 ℓ/10a	収穫後～ 休眠期	本剤 1回 イミノクタジン剤 5回 〔塗布剤は2回、 液剤は1回〕	
	黒斑病			休眠期	本剤 1回 イミノクタジン剤 3回 〔休眠期は1回〕	
もも	縮葉病	250～ 500倍	200～700 ℓ/10a	休眠期	本剤 1回 イミノクタジン剤 3回 〔休眠期は1回〕	散布
みかん	貯蔵病害 (青かび病 緑かび病)	2000～ 3000倍	200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで	本剤 3回 イミノクタジン剤 3回	散布
	貯蔵病害 (黒腐病 白かび病 すす斑病)	2000倍				

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
かんきつ (みかん、ゆずを除く)	貯蔵病害 (青かび病 緑かび病)	2000～ 3000倍	200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで	本剤 2回 イミノクタジン剤 2回	散布	
	貯蔵病害 (黒腐病 白かび病 すす斑病)	2000倍					
ゆず	貯蔵病害 (青かび病 緑かび病)	2000～ 3000倍		2000倍	展葉期		本剤 4回 〔但し、開花期以降〕 散布は3回 イミノクタジン剤 4回 〔開花期以降は3回〕
	貯蔵病害 (黒腐病 白かび病 すす斑病 幹腐病)	2000倍					
マルメロ かりん	腐らん病	1500倍	100～300 ℓ/10a	収穫終了後 (冬期まで)	本剤 5回 イミノクタジン剤 5回	散布	
アスパラガス	茎枯病	1000倍	100～700 ℓ/10a	—	本剤 8回 イミノクタジン剤 8回		
りんどう	花腐菌核病 葉枯病 黒斑病	1500倍	60～150 ℓ/10a	根雪前	本剤 2回 イミノクタジン剤 3回 〔種子への処理は1回、 散布は2回、出穂期 以降は1回〕	塗沫処理	
麦類 (小麦を除く)	雪腐大粒菌核病 紅色雪腐病	1000倍	乾燥種子 1kg当り 30～50mℓ	は種前	本剤 1回 イミノクタジン剤 3回 〔種子への処理は1回、 散布は2回、出穂期 以降は1回〕		
	紅色雪腐病	10倍	乾燥種子 1kg当り 15～25mℓ				
	紅色雪腐病 糸斑病 斑葉病 網斑病 ふ枯病 なまぐさ黒穂病	原液	乾燥種子 1kg当り 3～5mℓ				
	斑葉病	250～ 500倍	—				
	なまぐさ黒穂病	1000～ 2000倍	—				
	—	—	—			—	
小麦	雪腐大粒菌核病 紅色雪腐病	1000倍	60～150 ℓ/10a	根雪前	本剤 3回 〔但し、出穂期以降は〕 1回 イミノクタジン剤 4回 〔種子への処理は1回、 散布及び無人航空機 散布は合計3回、出穂 期以降は1回〕	散布	
	うどんこ病 葉枯症	1000～ 2000倍		収穫14日前 まで			
	赤かび病	1000～ 2000倍		—			

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
小麦	紅色雪腐病	250倍	25 ℓ /10a	根雪前	本剤 3回 〔但し、出穂期以降は〕 1回 イミノクタジン剤 4回 〔種子への処理は1回、 散布及び無人航空機 散布は合計3回、出穂 期以降は1回〕	散布
		10倍	乾燥種子 1kg当り 30～50mℓ	は種前	本剤 1回 イミノクタジン剤 4回 〔種子への処理は1回、 散布及び無人航空機 散布は合計3回、出穂 期以降は1回〕	塗沫処理
	5倍	乾燥種子 1kg当り 15～25mℓ	種子吹き付け 処理又は塗沫 処理			
	紅色雪腐病 条斑病 ふ枯病 なまぐさ黒穂病	原液				乾燥種子 1kg当り 3～5mℓ
	なまぐさ黒穂病	1000～ 2000倍	—	10～30分間 種子浸漬		

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用してください。
- 麦類の種子消毒の場合、吹き付け処理は専用の種子消毒機を使用し、薬液が種子に均一に付着するようにしてください。また、塗沫処理の場合は適当な容器内で種子をかき混ぜながら薬液を滴下するなどして、種子に均一に薬液を付着させてください。
- 本剤を小麦に対して希釈倍数250倍で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を用いて均一に散布してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■混用・薬害

- ボルドー液とは沈殿を生じるので、混用しないでください。
- 石灰硫黄合剤との混用時、原液同士での混合は沈殿を生じるので、本剤の希釈液を作り、その中にかき混ぜながら、石灰硫黄合剤を入れてください。
- りんごに使用する場合は次のことに注意してください。
 - ①芽出し2週間すぎから落花後40日頃まではさび果、花そうでの軽微な不整葉を生じることがあるので、この時期の散布はさけてください。
 - ②展葉期に使用する場合、この時期の西洋なしには薬害を生じるおそれがあるので、近接している場合にはかからないように注意してください。
 - ③紫紋羽病防除に使用する場合、苗木発芽後の処理では展葉を阻害する傾向があるので、発芽後の処理はさけてください。また、苗木根部に付着した土壌をできるだけ除去したのちに処理してください。
- アスパラガスに使用する場合は次のことに留意してください。
 - ①若莖に薬液が付着すると莖が曲がるがあるので留意してください。なお、このことによる株養成への影響はみられていません。

②夏期高温時の散布では針葉（擬葉）が白化することがあるので、使用濃度を守り、朝夕に散布してください。

- 日本なし、もも、うめ等の果樹、稲、きゅうり、あぶらな科作物、豆類には、葉に葉害を生じることがあるのでかからないように注意して散布してください。
- かんきつの施設栽培で果実の着色終了前に使用する場合、果実に着色むらを生じるおそれがあるので、降雨時等の極端な多湿条件下での散布はさけてください。
- ぶどうの晚腐病（休眠期散布）の防除の際、500倍では効果が劣ることがあるので、多発が予想される場合には250倍で使用してください。また、ハウス栽培（特に加温ハウス栽培）では、果実に葉斑を生じるおそれがあるので散布はさけてください。

■ 蚕 毒

- 蚕に対して毒性があるので、桑にはかからないように注意して散布してください。

■ 水産動植物への注意

- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■ 安全使用上の注意

- 医薬用外劇物ですので取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けてください。



- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時および種子消毒の際には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受けてください。

- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。



- 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用してください。また薬液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。

- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

■ 貯蔵上の注意



- 密栓し、直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温な場所に保管してください。

本資料の記載内容は2024年7月25日現在の登録内容に基づいています。